

2010.03.04 : 平成 22 年 第 1 回定例会

○三十一番（たきぐち学君）

次に、ものづくり企業の振興について伺います。

私の地元荒川区は、印刷、金属加工、皮革、衣服関連などを中心としてさまざまな業種の事業所が立地していますが、とりわけ製造業が盛んなものづくりのまちとして発展してきました。製造業が占める割合は全産業の約二七%と、区部全域と比べ二倍以上です。

また、四人以下の従業員規模の事業所数が六割以上を占め、中小零細企業が二十三区の中でも際立って高いのが特徴です。こうした中小零細企業は、下請部品や半製品の製造が多いことから、不況や価格競争、発注側の経費削減等のあおりをまともに受け、利益を削らざるを得ないという、もともと非常に弱い立場にあります。

このような下請を中心とした荒川区の事業所は、今では最盛期の半分まで落ち込んでいます。長期的な傾向に加えて、昨今の我が国経済を取り巻く厳しい環境がさらなる追い打ちをかけ、今や荒川区の製造業は極めて深刻な状況にあります。

都は、下町四区、台東、荒川、墨田、葛飾と連携して、それぞれの頭文字をとったTASKプロジェクトを推進していますが、今こそこうした企業を下支える支援策を強力に行っていくことが求められています。

今後、都は、ものづくり企業の振興をどのように図っていくつもりか、知事の所見を伺います。

ものづくりの頂点は、熟練した技能を持つ職人です。荒川区には独自のマイスター制度があり、広く活躍されていますが、技術をいかに継承していくのか、後継者の育成が大きな課題となっています。ものづくり人材を確保するには、ものづくりの魅力、トップランナーのステータスを高めることが重要です。

東京都は、都内の中小企業に勤務するすぐれた技能を持つ人を東京マイスターとして認定しており、これまで千二百人を超える方が東京マイスターの称号を得られています。その存在をどれだけの人が知っているのでしょうか。東京マイスターの積極的なブランディングを図り、認知度を高め、表彰制度にとどまらず、活躍の場を提供していくことが必要だと思えます。

所見を伺い、私の質問を終わります。

○知事（石原慎太郎君） たきぐち学議員の一般質問にお答えいたします。

懸命に努力をする小零細企業への支援についてであります。東京には多様な基盤技術を有する小零細企業が数多く存在し、日本の産業を支える重要

な役割を果たしております。しかし、こうした企業の多くは、国際競争の激化や長引く不況により厳しい経営環境に置かれ、ものづくり産業の持続的な発展が危ぶまれております。

あなたと同じで、私の選挙区でありました大田区にもこうした零細企業がたくさんありまして、そういった企業の存続のバリアの一つは、だれに、どうやってこの技術を継承していくかということ。もう一つは、相続の問題なんですね。こういった問題を周りでやはり援助し、解決してあげないと、せっかく大事な役割を根底の根底で果たしている小零細企業の存続というのは難しいと思います。

このため、技術力の向上や受注体制の強化を図るとともに、制度融資の充実など、多面的な支援を一層強化していかなければならないと思っております。

今後とも、こうした取り組みを着実に実施し、東京の産業の屋台骨を支える小零細企業をしっかりと支援していくべきだと思っております。

他の質問については、関係局長から答弁します。

○産業労働局長（前田信弘君） 東京マイスターについてのご質問にお答えします。

熟練した技能を持つ方々は、それぞれの産業分野のみならず、東京の貴重な財産でありまして、その確保と育成を図ることが求められております。

都では、昭和五十八年度から、金属加工や飲食物調理など、二十の職業部門の第一線で活躍され、特にすぐれた技能を有している方々に知事賞を授与していましたが、さらに平成十五年度から、その受賞者の方々を東京マイスターとして認定しております。

こうした東京マイスターの技能や功績は、都のホームページに掲載するほか、講師データベースに登録し、ものづくり講習会を実施する区市町村や民間団体等に広く情報提供してありまして、知名度の向上を図っております。

また、活躍の場の拡大に向けては、職業能力開発センターを地域に開放する技能祭や、職人わざの奥深さを紹介する、たくみのわざフェアなどの場におきまして、その作品の展示や実演を行い、その技能のすばらしさを都民に理解していただく機会を提供しております。

さらに、若者に技能の現場を体験させる職人塾において、東京マイスターの方々が親方としてもものづくりの魅力を伝えるなど、後継者の育成にも貢献していただいております。

今後とも、こうした取り組みを積極的に進めまして、東京マイスターの社会的地位を高めるとともに、活躍の場を広く提供することにより、ものづくり技能の振興に努めてまいります。